

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4094400019		
法人名	株式会社 パラディ		
事業所名	長寿の里 なかばる	ユニット名	本館
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町甲仲原1-20-23		
自己評価作成日	平成27年2月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年2月24日	評価確定日	平成27年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所の基本理念である「いつも感謝の気持ちを胸に 明るく 優しく 笑顔で 共に想い 共に支えあいます」をモットーに、常に感謝の気持ちを持ちながら、入居者様の暮らしを職員が黒子となって支えられるように心がけている。また、入居者様、ご家族様、職員、地域の方々と共に支えあい、地域に根付いた事業所を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“長寿の里 なかばる”は開設から6年が過ぎた。地域行事や甲仲原地区の防災訓練にも参加し、地域の一員としてホームのできる役割を担わせて頂いている。26年秋頃から職員の入れ替わりを経験しているが、勤務経験が4年以上の職員も多く、全職員が結束して日々のケアを続けてこられた。長く入居している方もおられ、100歳代の方々もご自分のペースで生活し、職員に料理の仕方や味付けを教えて下さったり、歩行訓練を続けている。総括(管理者)やケアマネ、主任の方々を中心に職員個々の育成を続けており、職員の成長のスピードに個人差はあるものの、全職員の成長は着実に見られている。今後も職員のモチベーションを維持し、母体の会社である“パラディ”の理念である“王冠(最高のおもてなし)”を目標に、職員の自主性を活かしながら、接遇面における更なるレベルアップを目指していく予定である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、理念を唱和している。又、ケアカンファ時等にも入居者様への接し方を伝えている。	新しい職員にはオリエンテーションで理念を伝えている。理念には「職員が黒子になって」と言う意味も込められ、「地域と共に支えあいます」と言う思いも含まれている。年々、職員は理念の意味を理解し、「入居者が主体である」事を踏まえたケアになってきている。	統括・ケアマネ・主任が、「いつも感謝の気持ちを胸に 明るく 優しく 笑顔で 共に思い 共に支えあいます」と言う理念の実践状況を確認している。今後は「接遇」や「笑顔の挨拶」をレベルアップするため、委員会で検討する予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入居者様と共に参加している。地域の方達に職員や入居者様の顔を覚えて頂けるようになり、地域に溶け込んできた事も実感できる。	地域の清掃活動に職員が参加し、水害の原因となる土手の掃除も行っている。地域の夏祭りや敬老会に参加したり、元旦に子供獅子舞がホームに来て下さり、ご利用者も喜ばれている。ハロウィンでは英会話教室の子供達に来て下さり、クリスマスには桑野歯科の親戚の方がフルート演奏をして下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に、入居者様の生活状況等を伝える事で、理解を得られるようにしているが勉強会等の開催等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、入居者様の生活状況や取り組み状況等の報告を行い、ご家族様や行政等から出た意見を反映できるように努めている。	土日を含め、参加しやすい日程を検討している。介護職の待遇に関する意見や、家族と信頼関係を構築するためのアドバイスを頂いたり、参加者や職員の3分間スピーチも行われ、介護の思いなどを共有している。協力医療機関の方も参加して下さい、口腔ケアや看取りケア等の勉強もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者状況や職員状況等をその都度報告しており、法的な相談も行っている。又、担当者への報・連・相に努めている。	町主催の「地域包括ケア」の研修に統括が参加し、多職種との情報交換を行う事ができた。医療連携体制加算等を担当者に相談した時もアドバイスを頂いた。25年から町の職員が運営推進会議に参加して頂き、26年度は地域包括の方も来て下さり、ホームの取り組みを理解して下さい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議等で身体拘束や虐待となるような内容をその都度話しており、事業所では身体拘束は行わない事を常に伝えている。又、中級・上級職員研修でも身体拘束について勉強会を行っている。	生命を脅かす状況でない限り、身体拘束は行わない事を職員と共有している。ホーム会議や申し送りで、身体拘束にあたる行為をしていないか確認を行い、常に職員の意識付けを行っている。委員会活動も行い、他の施設で行われた身体拘束の事例を職員間で共有する機会も作られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	中級・上級職員研修で身体拘束、虐待について勉強会を開催しており、日常でも入居者様の全身状態を観察している。又、入居者様から出る職員に対する訴えの内容にも気をつけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会が少なく、今後勉強会や外部研修等で機会を増やしていきたい。実際、入居者様の中で成年後見人を利用している方は2名いたが、それぞれ退居されている。	キャリアパスの研修の中で権利擁護の勉強をしている。現在は制度を利用している方はおられないが、入居時に家族に制度に関する説明をしている。今後も制度に関するパンフレット等の準備を行う予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、退居時、法改定時には、家族に説明と理解を得るように、時間を設けて行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関しては、行政等も窓口となっている。又、ユニット玄関ホールに意見箱の設置と面会時や運営推進会議等で気軽に要望や意見が言えるよう、職員と家族の会話を大切にしている。	面会時や電話で要望を伺っている。毎年の家族会に子ども達の太鼓演奏を招待したり、家族の方に早食い競争に参加して頂いた。家族の方が介護の仕事を労って下さり、職員の成長を心配する声も聞かれ、今後も指導を続けると共に、職員の接遇面のレベルアップを目指す予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ケアカンファ、定例会議、日頃の業務等で意見や要望を聞く機会を設けており、状況に応じて改善策に努めている。	職員からの要望を大切にしており、入居者のユニットの移動を含め、職員の意見を聞いている。業務の見直しや検討を行うと共に、職員の心身状態やモチベーションを把握するように努めている。職員に研修の要望も確認しており、「認知症の勉強をしたい」等の要望が聞かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者や職員の勤務状況の把握に努めており、人材不足に関しても派遣を導入するなどし、対策に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	明るく真剣に仕事に取り組む姿勢があれば、年齢性別問わず採用しており、本人の「やる気」を重要視している。	採用時の面接は時間をかけている。仕事のプラス面とマイナス面を伝え、“仕事へのやる気”を確認している。職員の年齢幅も広く、必要に応じてユニット間の人事異動も行われている。まじめで一生懸命な職員が多く、一生懸命な姿勢が時に空回りしている現状も把握し、個別のアドバイスを続けている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム会議・ケアカンファ、事業所内研修等で入居者様の立場にたって接する事と、接遇にも引き続き力を入れて取り組んでいる。	日々の申し送り時に、言葉遣いや尊厳の視点での関わりの大切さを職員に伝えており、「寝かせた」ではなく、「寝て頂いた」等の言葉の使い方を丁寧に指導している。居室の整理整頓を指導する事も多く、「家族・本人の立場に立って」と言う視点を繰り返し伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護年数に応じた研修や、ホーム会議等での勉強会等を行っており、OFF-JTも職員1人1人の能力や経験に応じて出来る限り参加している。統括管理者は認知症介護指導者養成研修を受け、2ヶ月間の研修を修了している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な限り、行政主催のネットワーク等への参加と、社協主催の研修等への参加したり、管理者の認知症指導者養成研修の参加により、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で、職員は入居者様とのコミュニケーションを常に図り、信頼関係を深めていけるように努めている。又、表情や状態を観察し、不安な顔等をしている時はその都度話しを傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、自宅や施設等での生活状況を聞き取りながら、ご家族様の対応や不安事等も伺っている。又、入居当初は事業所に対する不安もあると思われる為、極力不安が取り除けるような対応に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様との話しや状況を踏まえ、先に必要とする支援からサービスを取り組むようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様お1人お1人の能力を見極め、出来る事は可能な限り自分で行って頂いたり、職員と協力し合いながら取り組むような支援に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の食事介助や、ご家族様との外出支援、ご家族様で出来る範囲の介助等を行って頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親族等が定期的に訪問されており、関係が継続できるように、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	学生時代の友人との面会を楽しまれている。寒中見舞いを家族に郵送する取組みも行われ、入居者に書ける範囲を書いて頂いた。家族と行きつけの美容院に出かけたり、自宅に帰り、自宅の庭のミカンをお土産に持ち帰って下さった方もおられる。馴染みのルクルに職員と行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話で口論になりそうな時は職員がすぐに間に入る事で、入居者同士の関係が悪化しないように努めている。又、他の方との交流が難しい入居者様に関しては、職員が関わりを持つようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族様との関わりは殆どないが、ご家族様に、いつでも立ち寄って頂くようお伝えしている。常時医療行為が必要となり、当事業所での受け入れが難しい入居者様の受け入れ先のフォローは精一杯支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との日常生活の会話や関わりの中で、ご本人の希望や意向等が伺えるよう努めている。又、入居者様が主体である事を職員にその都度伝えている。	各入居者の担当を決めており、会話の中で希望を伺っている。センター方式の「私の姿と気持ちシート」を担当職員が作成し、入居者の心情の把握に努めている。意思疎通が難しい方も、職員が根気強く声かけし、思いの把握に努めており、個人介護記録と申し送り帳で情報共有している。	職員が全入居者の真意を理解し、お一人お一人の介護計画及びケアの根拠を共有していく予定である。行動障害の背景にある原因を分析し、常に「なぜ？」と考える思考を身につけていきたいと考えている。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴をご家族様から聞き取っているが、入居後もご家族様との会話の中で、これまでの暮らしぶりを聞き取るようにしている。必要な事はケアカンファや申し送り時等に情報共有を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人介護記録や業務申し送り帳等に心身状態や昼夜の状況を記載しており、朝・夕も申し送り時にも一人一人の状況を申し送っている。又、ケアカンファ時にも情報の共有を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成前に家族に状況報告と要望等を聞き、日々の会話の中からご本人から伺った要望をもとに作成し、ケアカンファや申し送りに職員間で情報を共有を行っている。職員からの日々の情報もプランに反映できるようにしている。	「良い事を習慣にさせて下さい」等、主治医からアドバイスを頂き、家事等の役割を担って頂いている。ご本人との会話から真意を読み取り、「できる事をしたい」「できない事は手伝ってほしい」等の内容を介護計画に盛り込み、具体的なケア内容を記載している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、ご本人の言葉も入れ状況が分かるように職員が対応した内容も含めて記載し、業務前に各々の入居者様の記録や管理日誌を読んでから支援を行っている。又、ケアプランのサービス内容を行った時も記載し実施状況を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様お一人お一人の置かれている状況を把握し、ニーズに応じた支援の取り組みに努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所から丸6年が過ぎ、地域の方とも徐々に馴染みの関係になりつつあり、地域行事の参加の継続が行えている。又、事業所行事でも地域のボランティアを利用させて頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関にかかりつけ医を依頼しているが、精神科等に関してはご家族に要望をお聞きし希望に添っている。又、緊急時の受診先に関しても、宮崎内科とご家族様との話し合いを行い、受診先を確認し希望に添えるようにしている。	24時間対応して下さる協力医療機関に変更される方が多い。往診専門の宮崎先生や訪問歯科医との連携もあり、看護師の訪問もあり、職員の安心になっている。症状に応じて紹介状を書いて下さり、確定診断に繋がった方もおられる。職員や家族が通院介助し、受診結果を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師巡回時に入居者様の状態を報告し、訪問診療時にも報告を行っている。看護師との24時間連絡体制も整えており、入居者様の状態に応じてその都度状況報告と対応が行えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に看護師に状態を確認し、電話にてソーシャルワーカーにも状態を聞き取っている。職員による定期的な面会と、退院後の受け入れがいつでも出来るように体制を整えるようにしている。又、退院前のカンファにも参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約時に医療連携体制加算の同意を得、重度化に対する指針等を説明している。又、看取りケアを行う際は、本人の意向を確認しながら、ご家族様やかかりつけ医、当事業所と話し合いを行い、今後の方針を決めている。ご家族様の要望に臨機応変に対応できるように努めている。	24年度から看取りケアが行われ、両ユニットで3名の看取りケアが行われた。ご本人の自己決定を大切に、「ここにいたい」等の思いを把握している。主治医、家族と話し合い、「延命治療はしない」「胃瘻はしない」等の家族の要望も伺っている。統括からの「悔いの無いように」と言う言葉を胸に、誠心誠意、ホームでできる事を行わせて頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は職員各々行っているが、臨機応変の対応に欠ける事がある。又、パートの職員も応急手当や初期対応が確り身に付けられるように定期的に訓練を行う必要がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年間2回行っており、災害時等は緊急連絡網で職員全員に連絡する体制を取っている。引き続き地域の防災訓練に参加しており、協力体制を依頼している。	26年度は指示ができる職員の育成を目指した。訓練のシナリオを作成し、防災委員が当日の指示者を決め、スムーズに避難誘導ができた。甲中原地区防災訓練にも参加し、地域の方2人がホームの援助者になって下さっている。今後は自然災害に備え、法人全体で協力体制を検討予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対する言葉使いは敬語又は丁寧語を徹底しており、「してあげている介護」ではなく、お世話をさせて頂いているという気持ちで支援を行うよう、申し送りやホーム会議等で話している。	言葉遣いに注意を払い、命令口調や指示語にならないように職員に伝えている。居室に入る時も、ご本人に伝えて入室し、付き添いを嫌がられる時は無理強いせず、距離を置きながら見守りをしている。情報管理も徹底し、「自分の家族であっても漏洩しない」事を職員に伝えている。	時に職員の気持ちに余裕がなくなり、語尾が強くなる場面が見られる。以前に比べて改善されているが、今後も委員会などの場を活用し、職員主体で改善方法の検討をしていければと考えている。 (外部評価項目1と共通)
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、飲み物、入浴、活動等、入居者様に希望を聞きながら、出来る限り希望に沿いながらケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその時の気持ちや精神的な状況、身体面等を把握し、無理強いすることなく入居者様の状況にそって支援を行うようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	色にこだわりのある方は自身で服を選んで頂いたり、他の入居者様も同じ服ばかりにならないように配慮を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食べたい物をメニューに取り入れられたり、盛り付けや水を注ぐ等のお手伝いを職員も一緒に行っており、出来る限り入居者様と共に準備と片付けを行うようにしている。	給食委員会で献立を作成するが、入居者の要望に応じて献立を変更している。代表や大家さんが新鮮な野菜や魚を届けて下さり、畑の野菜も使用している。入居者が盛り付け等をして下さり、味付けや野菜の切り方をアドバイスして下さる。毎月の食事レクでは、焼きそば作り等を楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取表をもとに、1日の食事や水分摂取量の把握を行っている。水分や食事が摂り難い入居者様に関しては、特に気をつけて職員間で状態把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の歯磨きを欠かさず行っており、ある程度自力で磨いて頂き、その後磨き直しの支援を行っている。ご本人・ご家族様の希望により、訪問歯科も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定期的にトイレ誘導を行うと共に、昼夜において各入居者様の状態に応じた排泄支援を行っている。	入居者個々のサインを察知している。見守り時はご本人の視界に入らないように努め、個別のトイレ誘導で尿とりパットの枚数が減った方もおられる。布の下着を着用し、排泄が自立している方や、ご本人の希望で紙パンツを着用する方もおられ、ご本人の心理に配慮した個別ケアを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や個別運動等を行うと共に、こまめな水分補給と野菜を中心とした食事を提供している。又、朝の申し送り時に各入居者様の排便状況を報告し、排便状態の把握を全職員で行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は1日おきに入浴を行っているが、各入居者様の身体状態に応じて臨機応変に対応を行っている。又、入浴前にはご本人に声かけを行い意思確認を行い入って頂いている。決して無理強いにならないよう気をつけている。	ご本人が自然とお風呂に移動できるように、個別の声かけを工夫している。ご本人が希望する職員が介助する等、入浴を拒む方は減っている。入浴時は会話を楽しみ、「草津良いところ」や「もしもしカメよ♪」等の歌も聞かれ、職員も一緒に唄っている。季節に応じて柚子湯等も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の申し送り時に、各入居者様の夜間帯の睡眠状況を夜勤者より申し送っており、睡眠状況に応じて日中ベッドで休んで頂く等、臨機応変に対応を行っている。就寝後に関しても、入居者様の希望に沿っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の内服情報を薬箱の側に置いており、いつでも確認できるようにしている。又、薬の追加や変更、他科受診した際に処方された薬に関しても、申し送り時に伝えと共に、申し送り帳にも記載し、確認したらサインを押している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換や楽しみごとを行っている入居者様や役割を持っている入居者様、各入居者様の趣味や楽しみごとを支援できるように努めているが、入居者様によりばらつきがある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の身体レベルの低下や、職員の状況により、外出の機会が減っている。日常の中では天候や入居者様の状況に応じて事業所の近隣の散歩に出たり、買い物に出かけるようにしている。時々ご家族様の付き添いで外出される入居者様もおられる。	窓の外を見ている姿を見て、散歩にお連れする事もあり、近くの地藏尊まで散歩し、地域の方と挨拶をしている。ホームの畑でピーマンやナスを収穫したり、買い物に行き、カートを押して下さる方もおられる。駕与丁公園でバラや桜などのお花見を楽しみ、イオンモールでは大好きなアイスクリームを楽しまれた。	両ユニット一緒に外出しており、系列施設の大型バスを借りて遠出する事もある。「買い物に行きたい」と言う事で、博多シティへの外出も行われた。27年度は外出の機会を増やし、動物を見る機会を作ったり、菖蒲等の花見を楽しむ事ができればと考えている。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望で少額を所持して頂く場合もあるが、個人の預かり金は事務所金庫で保管しており、買い物や外出時等に使用して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人での手紙のやりとり等はないが、各入居者様で暑中お見舞いや年賀状等を送っている。又、家族の希望で個人的に携帯電話を所持している方がいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に応じた花の鉢植えをしており、季節の行事に応じてリビングや玄関ホール等に装飾品を設置するなどしている。又、物音も大きな音を立てないように心がけている。	テレビや音楽の音量、職員が立てる物音にも気を配り、入居者の方が不快にならないように努めている。温湿度に応じて気分の変調が見られるため、入居者の方に確認し、細めに温湿度調整を行い、座る場所にも配慮している。書道が得意な方に“事務所”や“トイレ”等を書いて頂いたり、家族にご指導頂き、手工芸作り等も行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを好む入居者様はソファで過ごされたり、食卓等で過ごすのを好まれる時はそのように過ごして頂き、各入居者様に応じて支援を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用している家具や仏壇等を持ち込んでいる方もおられ、自宅に居る時のような環境となるように、ペット以外は持ち込み自由としている。	居室入り口に職員手作りの小さな着物や魚の飾り物を掛けている。テーブルやソファが置かれ、居室でテレビを見たり、ラジオやラジオでCDやカセットテープを聞かれている。お仏壇を置かれている方もおられ、職員と一緒にお茶を供えている。編み物が好きな方もおられ、マフラーを編まれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余計な装飾品等は設置せず、明るく清潔感がある、生活感のあるしつらえとなるように努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		